

**日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院で
診療を受けられた患者さんへ
～臨床研究に関する情報公開について～**

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	急性期病院におけるせん妄対策・転倒転落予防・身体拘束解除を目的に検討項目を厳選したカンファレンスがせん妄発症率へ与える影響		
研究実施期間	院長が研究実施を許可した日 ～ (西暦) 2025年 1月 30日		
研究実施診療科	看護部		
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	2024年 8月 15日	
	院長が研究実施を許可した日	2024年 8月 16日	
対象となる方	(西暦) 2021年10月1日 ～ (西暦) 2023年9月30日に、当院1病棟7階東において、3日以上入院した方		
主たる研究実施機関	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 (研究代表者氏名：大渡 佳世)		
研究責任者	所属	看護部	氏名 大渡 佳世
共同研究機関	別紙【研究組織】参照		
研究の意義・目的	せん妄による影響は、治療の遷延、認知予後の悪化、死亡率の上昇、ADLの低下、転倒・転落の増加、入院期間の延長、医療費の増大、介護者の疲弊など重大なものが多いです。せん妄は発症すると症状の対応に追われることが多く、予防的介入が重要となります。病棟患者の中からせん妄ハイリスク患者をリストアップして焦点を絞り、せん妄を誘発する因子を減少させることを目的としたカンファレンスを毎日実施可能な形で導入しました。カンファレンスによりせん妄の発症率を低下させることができれば、上記問題を減少させることに繋がります。また、個人でのアセスメントや悩む時間を短縮することができ、他の看護ケアの時間を圧迫せず看護の質を保障することができます。		
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集し、統計学的に検討します。		
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を、個人を直ちに特定できるような情報とは切り離れた状態で使用します。(年齢、性別、性別等の基本情報、せん妄歴、診断名、病歴、併用薬、飲酒歴、入院日数、日中の様子、夜間の様子、身体拘束の使用状況等)		

結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報等は、本研究目的以外に使用しません。
問い合わせ先	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 看護部 平野 詩織 電話 052-832-1121 (代表)

《別紙》

【研究組織】

1. 研究代表者

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 大渡 佳世

2. 共同研究者

所 属	責任者
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	宮川 慶